

名前 近藤久子

問1 あなたが最も解決する必要があると考える庄原の課題は何ですか。

どのような職種であれ、学びの場、また地域社会・家庭内においても「男女共同参画社会」の理念を正確に把握した上での実現なくして、誰もが幸せ感を得ることは難しい。性別にかかわらず一人ひとりの個性を尊重し、個人の能力を十分に発揮できる社会の実現を目指し続ける庄原市であってほしい。日本の変わらない不平等を変えるために庄原市議会は、昨年12月の定例会議において「女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書」を全会一致で可決。その背景には●ジェンダー平等度の低さ●男女賃金格差●非正規雇用の割合（男性22.2% 女性53.4%）●第一子出産で退職する女性は30.5%●成人女性の4人に一人がDV被害者がある。この意見書を提出で来た背景には、庄原市議会の私を含めた女性議員の存在が大きかったことは言うまでもない。

問2 上記問1で答えた課題の解決に向けてどの様に取り組んでいきますか。

第2次世界大戦後の「世界人権宣言」。しかし女性に対する暴力、差別や貧困の現状は変わらずその後に「女性差別撤廃条約」が国連で採択された。この条文の中に、批准した国においては「男女共同参画社会基本法」を制定することが求められており、日本は、この基本法の前文は、少子高齢化の進展、我が国の急速な変化に対応していく上で、男女共同参画社会の実現を **21世紀の我が国社会を決定する最重要課題**と位置づけた内容となっている。

平成29年3月に策定された「第2次庄原市男女共同参画プラン」は平成29年度～令和8年度の10年間で計画期間であるが、今後の見直し等についてはこれ迄の総合的な点検・評価を十分踏まえた、「環境づくり」「人づくり」「安心づくり」を中心に、あらゆる分野の男女同数のプラン策定委員の開催を望む。「庄原市まちづくり条例」策定時にはそうであった。

問3 なぜ、市議会議員を志されたのかを教えてください。

47歳の時、同じ地域で選出されていた方の体調不良により、私にお声がかかりました。父は反対していましたが、夫の「女性議員がゼロというのはおかしい」との後押しで立候補を致しました。当時の東城町議会の定数は16名。合併前の2期8年間は女性議員一人でした。合併後は退いていましたが、「庄原市議会に女性議員がいない。何とか・・・」とお声を旧庄原市の方からかけていただいたのが出発点でした。

今回は4期目の挑戦ですが、これ迄培ってきた教育・福祉・環境・文化関係を土台とし、公約である「あなたの声を市政に届けます」を基本に市民の皆様の負託にお答えするため立候補を決意しています。